

広げよう福祉の輪！

三徳だより

第115号 2026年（令和8年）

発行：社会福祉法人三徳会

<https://www.santokukai.com/>



特別養護老人ホーム 成幸ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0053 品川区中延1-8-7 TEL.(代)03-3787-3616 FAX.03-3783-6580 santoku-seikou@ap.wakwak.com

品川区立戸越台特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0041 品川区戸越1-15-23 TEL.(代)03-5750-1054 FAX.03-5750-1055 santokukai.togoshi-h@proof.ocn.ne.jp

品川区立荏原特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
障害者計画相談支援事業所
〒142-0063 品川区荏原2-9-6 TEL.(代)03-5750-2941 FAX.03-5750-3695
小山台在宅介護支援センター
〒142-0061 品川区小山台1-4-1 TEL.(代)03-5794-8511 FAX.03-5794-8512

品川区立平塚橋特別養護老人ホーム・ショートステイ・高齢者多世代交流支援施設「平塚橋ゆうゆうプラザ」
〒142-0054 品川区西中延1-2-8 TEL.(代)03-5750-3632 FAX.03-5750-3642 hiratuka-ow01@santokukai.com

品川区立小山在宅サービスセンター「小山の家」
〒142-0062 品川区小山7-14-18 TEL.(代)03-5749-7251 FAX.03-5749-7252
小山在宅介護支援センター TEL.(代)03-5749-7288 FAX.03-5498-0646

成幸ホーム

柴田 八重子 様（100歳）
大正14年1月2日生まれ

長女様より寄稿いただきました。

母は大森の生まれで、4人兄弟の末っ子だったため、父親にはとてもかわいがられたそうです。またすぐ上の姉とは大変仲良く遊びやいたずらに励んでいました。兄の友人からその姉に縁談が持ち込まれましたが姉はすでに相手が決まっていたので、「じゃあ妹さんでいいや」という感じで両親は結婚いたしました。結婚後はちょうど終戦の頃で食料も不足していましたので母とお姑さんで庭を耕して野菜などを育てていたそうです。母の年代の人はたくましく生活力があると思います。我が家は自営業で収入が少なかったため、私の子ども時代は母は家事をする傍らよく内職をしていて大変働き者でした。

その後我々子どもたちもそれぞれ家庭を持ち、しばらくは平穏無事だったのですが、父が病気で入院した時は母は毎日病院へ通いこちらが感心するほどよく看病をしておりました。私はこの時本当の夫婦の姿を見せてもらったような気がいたしました。父は一年間ほど入院して逝ってしまい、母はしばらくおとなしくしていましたが、だんだん元気になり、私と一緒に年一回くらいのペースで旅行に行くようになりました。音楽が好きなので行く先はいつもウィーンと何処かという感じでした。ある年は私の都合が悪く母は一人で旅行に行っていました。多分その時75歳くらいだったと思います。その時から、これから動けなくなっても頭の中に楽しい思い出が一杯あるからいいの、などと言っておりました。

97歳を超えた頃から自宅での介護が困難になり、一昨年5月からこちらのホームでお世話になっており我々家族は大変感謝しております。面会に来るたび母の笑顔に会うのが楽しみです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



戸越台ホーム

山口 ハナ子 様（100歳）
大正14年4月14日生まれ

長女様にインタビューしました。

母は会津若松で生まれ育ちました。子どもは二人、私と弟です。父母は生まれたときから耳が聞こえないろう者で、二人はとても働きものでした。父は器用で包丁研ぎや自転車のパンク修理などをして、近所の方からよく頼まれていました。母は和裁を習っていたので、縫物はお手の物で、浴衣をいとも簡単につくっていました。父母は仕事が忙しく、私は学校が終わるとまずは祖母の家に寄り、夜になったらまた祖母の家へ。そんな日々でした。

私が東京に来たのは23歳の頃で、結婚を機に上京しました。弟が会津に帰省したとき、一緒に来たのが、後に私の夫となる人でした。会津で嫁いで農家をやるより、やっぱり東京に行こうかな、と思い決断をしたのです。東京で暮らして10年ほどたった頃、会津の祖母から「父母を引き取って欲しい」という連絡がありました。祖母も年を取り、父母のこれからのことを考えると娘である私と一緒に生活を送るのがよいと考えたのだと思います。

父母を呼び寄せて共に生活をするのは大変だろうな、と思いましたが主人の協力のおかげで同居が実現しました。昔はろう者に教育する学校はなく、手話も習えなかったもので、すべて自己流のコミュニケーションをとっていました。母は何でも自分の思い通りにしたいことを貫こうとするので、意思の疎通が難しいところがありましたが、父と戸越銀座まで買い物に行くなど東京の生活を楽しんでました。主人に感謝しているのは、父母と孫たちをあちこち連れて行ってくれたことです。母は車いすで飛行機に乗り、沖縄やハウステンボス、温泉やディズニーランドも行きました。これも家族みんなが協力してくれたおかげです。

今年で母は100歳になりました。たくさんの思い出と共に、これからも平穏な暮らしができますよう願っています。



特集 敬老のお祝い



令和7年度の敬老式典はご家族と共にアットホームな雰囲気でお祝いしました。新型コロナウイルス感染症が5類になり2年以上が経過したこともあり、面会いただける機会も増えております。

そうした中でもやはりご家族と会えることで話が弾み、皆さま笑顔で写真に収まりました。「米寿」、「卒寿」、「白寿」、「新百歳」、「百歳以上」を始めとするご利用者の皆さまが、元気で過ごしていただき、ご家族との面会ができますように願っています。

今回も様々な人生を歩んでこられた皆さまやご家族に、人生の思い出などのお話を伺いました。

※各施設のお祝いの方々の人数は表のとおりです。

	米寿(88歳)	卒寿(90歳)	白寿(99歳)	新百歳	百歳以上
成 幸 (定員 88)	7	6	0	1	4
戸越台 (定員 72)	3	3	4	1	3
荏 原 (定員120)	6	9	2	1	2
平塚橋 (定員100)	6	7	3	0	5

令和7年9月15日時点

荏原ホーム

野口 茂 様（89歳） 昭和10年9月27日生まれ
野口美恵子様（80歳） 昭和20年1月3日生まれ

次女様より寄稿いただきました。

両親は一昨年の1月からこちらにお世話になってます。毎月面会するたびに表情が明るくなっていくのを目の当たりにし、日々心穏やかに暮らしているのだろーと思ひ、職員の方々に感謝の気持ちがあふれます。敬老のお祝いの場を設けてくださりありがとうございます。90歳になる父と80歳の母が仲睦まじく笑っている姿が見られて嬉しく思います。

父は戦前の生まれで戦時中の物のない時代の話をよくしてくれました。人に感謝し、環境や物を大事にすること、世代的にも夜遅くまで仕事に打ち込み、現在の礎となる食肉の流通を築き上げました。仕事に誇りと情熱をもち、私たち子どもに強く生きること背中で見せてくれました。

母は終戦の年の1月に東京で生まれました。空襲の際、祖母が生まれたばかりの母をおぶって防空壕へ逃げた時、母が被っていた防災頭巾に火がついて燃えていたのを、近くの女性の方が消してくれた話を聞いたことがあります。繋がった命に感謝するエピソードであります。

母は子どもの時は恥ずかしがり屋で内気な性格だったと話していますが、私達が見てきた母は明るく社交的で、学校や地域での活動に積極的に参加し、地域の子どものために尽力していました。地域のイベントを企画したり、行事がある度に老若男女に人気があり優しく明るい母の姿が思い浮かびます。

父は家族のために仕事一筋だった時間を定年退職後は自身と母の時間に当て、趣味を楽しんでいました。お遍路歩き、東海道五十三次の旅、英会話に挑戦しイタリアひとり旅、定年後は「第二の青春の始まり」だと楽しむ姿を私たちは尊敬し一緒に楽しむことが出来ました。東海道五十三次の日本橋スタートでは母と兄が見送り、ゴールの渡月橋では母が待ち迎えてました。人生を楽しみながら努力を惜しまず前進すること「GOGO!」の精神は孫たちにも受け継がれています。

両親が安心安全な環境に恵まれ日々穏やかに過ごしている事を、心より感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



平塚橋ホーム

堀越 久子 様（102歳）
大正11年11月14日生まれ

長女様より寄稿いただきました。

母は、三人娘の洋服はすべて手作りで、普段着はもちろんのこと学校の制服もオーバーコートも結婚式のドレスもみんな作ってくれました。今になれば、なんて贅沢なことだったのだろーと母に感謝しています。

子どもが巣立った後は、色々な趣味をみつけ墨絵・踊り・孫や友人との旅行、そして町会のお手伝いもしながらいきいきと暮らしていました。70代に入った頃からは品川区の「脳力アップ元気教室」などに参加をして認知症予防に努め、自分の老いについてしっかり予防をしていました。

それでも、90歳を過ぎた頃には骨折をして介護が必要な生活となり、デイサービスを利用しながら自宅で穏やかに過ごしていました。

しかし昨年夏、コロナ感染をきっかけとして自宅介護をあきらめざるを得なくなり、急な展開で介護施設をあわてて探し、ある病院経営の介護施設にお願いをしました。

ところが母は日に日に言葉が少なくなり笑顔が消えて、面会に行っても別人のようになってしまった母を見て、このままでいいのか？致し方ないのか？と後悔の念にさいなまれました。そして2か月ほど経った頃、あきらめていた平塚橋ホームへの入居が決まり今日に至っています。

こちらでの母の様子は見違えるような変化を見せてくれて、何よりも食欲が出て笑顔もみせてくれるようになり、平塚橋ホームにお世話になることができて本当に良かったと安堵しています。そのすべては、ホームの方たちの優しく細やかにお世話してくださるお陰と心から感謝を申し上げます。

最近の母は「私はここで嫌な思いは何もないのよ、幸せ幸せ。みんなのお陰」と面会のたびに笑顔でそう言ってくれます。これからも母の笑顔が絶えることがないように、と願っています。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。



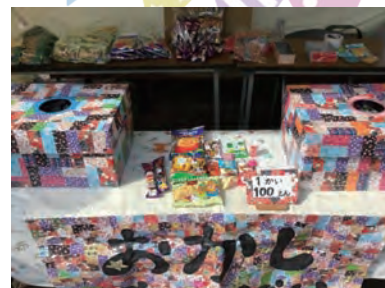
地域とつながる秋のイベントに参加しました

みんな集まれ！ふくしまつり2025

令和7年9月27日（土） 品川区中小企業センター・しながわ中央公園

今年は「インクルーシブスポーツチャレンジデー」との同時開催となり、テーマは“障害はある人もない人も一緒に楽しもう！”でした。障害者団体を始め、民生委員、ボランティア、福祉関係者など、すべての世代が一緒に楽しみながら交流を図るイベントになりました。

三徳会は「お菓子のつかみどり」で参加。昔懐かしいお菓子を狙いながら、真剣なまなざしでチャレンジしていた子どもたちや、高齢の方も「何がつかめるかな」と楽しんでいました。



荏原第三地区区民まつり・防災訓練

令和7年10月19日（日）
京陽小学校・ひらさん広場

荏原第三地区の16町会が集結したイベントが行われ、三徳会はゴミ収集のお手伝いをさせていただきました。

会場は各種模擬店などがある「区民まつりゾーン」と、ひらさん広場の「防災訓練ゾーン」の2か所で実施され、防災訓練ゾーンでは



荏原消防署、荏原消防団による初期消火訓練や、煙ハウスの設置など、参加者は熱心に体験していました。フィナーレは町会の区民消防隊とミニポンプ隊が登場。隊員による見事な放水訓練に、地域の防災意識が高いことがわかりました。

しながわオレンジフェスタ2025

令和7年10月12日（日）
しながわ中央公園

10月12日、しながわ中央公園で行われた認知症啓発イベント「しながわオレンジフェスタ2025」に参加しました。

当日はお天気にも恵まれ、スポーツ縁日やスタンプラリー、ミニコンサート等のイベントが開催され、大いに盛り上がりしました。

三徳会はポップコーンの販売で参加して、多くの方にご購入いただきました。

職員リレーエッセイ



平塚橋ホーム
佐藤 徳之

「ユニットケアをより良くするための新しい一歩」

平塚橋特別養護老人ホームはユニット型の施設です。しかし建物の形がユニット型であっても、それだけで「ユニットケア」が実現するわけではありません。大切なのは職員一人ひとりの意識や運営の工夫であり、そこには多くの課題があります。小さなユニットごとに生活を支えるには、想像以上に細やかな配慮と互いの協力が必要です。それでも、利用者の笑顔や「ここは自分の居場所だ」と感じてくださる瞬間に出会うことで、私は新しい一歩に挑戦する価値を確信しました。

今回の挑戦では、全職員で学びを深め、仕組みを整えました。さらに、ご家族にも日々の様子を丁寧に伝え、理解と協力をいただきながら歩みを進めています。ユニットケアは職員だけでなく、ご家族と共に築くものです。小さな改善の積み重ねが、ご利用者の「その人らしい暮らし」へとつながり、安心と温もりに満ちた毎日へとつながります。

ユニットケアは一人では成し得ません。職員とご家族が心を寄せ合い、共に歩むことで、ご利用者の毎日はより豊かで穏やかなものになります。道のりは決して平坦ではありませんが、利用者が「ここで暮らせてよかった」と感じられるような温かな環境を皆様と支え合いながら共に築いていきたいと思えます。

新しくなりました 三徳会のロゴマーク



4つの葉は法人の理念である「正義」「友愛」「奉仕」「福祉はサイエンス」を表し、色は4つの施設のシンボルカラーです。花言葉は「幸運」。すてきなことがありますように。

Instagram始めました

